



◎山行日：2022 年 10 月 29 日

◎メンバー：K藤（L）、F澤 J(以下 J 略)、F 島

丹沢勘七ノ沢の沢登りに参加しました。今後、沢登りの会山行や講習をやる場合に備えて、担当幹事間でより安全にスピーディな遡行をテーマとしました。個人的には、2020 年 8 月に K 藤さんと同沢を遡行しており、リードの練習をしたのと、花立山荘のご主人と立ち話をしたのを覚えています。



（二俣⇒）

秋晴れの中、気温もますます。大倉から西山林道をてくてく歩き、鍋割山へ向かう途中の二俣で遡行準備をします。多くの登山者が鍋割山へ向かいますが、遡行準備しているのは我々のみ。その後も沢登りのパーティーとは会いませんでした。

今回、ロープを使う滝については、F 澤さんと下名でリードを分担していくことにして、F1、F5 を F 島、F2～F4 を F 澤さんがリードしました。F1 の初っ端、足を 1 段上がったところからバランスを崩したか滑ったかで落ちてしまった。すぐさま 2 回目トライをして登る。沢靴を使うのが久しぶりで、慣れるまで感覚が掴めない、フェルトの底が減ってきたかなと言いつことを考える・・・、体は全く問題ないが出鼻を挫かれた感じだ。また、F1 の取り付けの一段上がった箇所の残置ハーケンが欠けてしまっており、今後クライミングとビレーに要注意です。F2～F4 で F 澤さんは、難なくリードとビレーをこなして、手応えを感じておられたようです。



（F4 2 段 15m）

F5 以降のゴルジュ帯と滝は、必要があればロープを使用するつもりでしたが、その必要もなく遡行でき、ペースを上げることができました。ゴルジュ帯は、変化があって飽きずに登れて沢登りしている感が高くオススメです。



（F5 大滝）



（ゴルジュ帯小滝①）



（ゴルジュ帯小滝②）

ゴルジュ帯を過ぎると、水量が少なくなり、毎度ながらの詰め込みの始まりです。大倉尾根終了点にむけ、どの支流をつめるかは、迷うところではありましたが、スマホのGPSアプリと遡行図を見ながら、花立山荘をターゲットに支流を選び、ピンポイントで到着することができました。花立山荘のベンチで沢装備を解除し、休憩して遡行を振り返りながら、お馴染みの大倉尾根からの景色を堪能します。

(花立山荘ベンチ⇒)



(丹沢の紅葉)

大倉登山口へは、17:35分で予定時間を過ぎてしまいましたが、スタートで30分程、交通関係でロスしたので、ほぼ予定通りでした。最後の10分程、ヘッドランプを使用しました。山行行程ではF澤さん持参の万歩計で約3万歩でした。

今年は、水無川本谷、高瀬川東沢、今回の勘七沢と同じパーティーで沢登りを続けてきて、連携や練度が上がってきたように感じました。

<了>

《参考コースタイム》

大倉 (8:34) ~ 二俣 (9:50~10:15)、F5大滝下 (13:00) ~

F5大滝上昼食 (13:15~35) ~ 花立山荘 (15:24~55) ~ 大倉 (17:35)